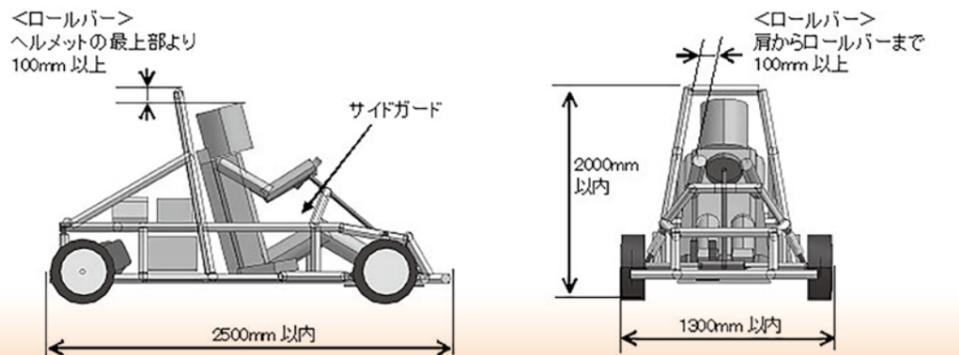


第11回



全日本EV & ゼロハンカーレース in 府中

2月15日(土)

ドラッグレース
(直線50mのタイムレース)

- 11:30~ 開会式
- 12:00~ ドラッグレース予選
- 13:15~ ドラッグレース決勝
- 13:45~ 閉会式
- 14:00~15:00 フリー走行

2月16日(日)

全日本EV & ゼロハンカーレース

- 8:10~ 開会式
- 8:30~ フリー走行
- 9:00~11:30 予選レース (タイムアタック)
- 12:00~ 決勝トーナメント
- 14:00~ 決勝レース

※学生部門、EV部門、一般部門、手づくりエンジン部門それぞれに予選・決勝レースがあります。

14:30~15:00 表彰式・閉会式

ところ 桜が丘グラウンド
観覧は無料ですので、自由にご覧ください。近隣に臨時駐車場を用意しています。

うごくものづくり in 府中

レース会場横では、ものづくり体験ができます。

とき 2月15日(土)12:00~16:00
16日(日)9:00~15:00
ところ エール・ドゥ・ヒロ

- ▷ゼロハン車体
- ▷実車を改造したレーシングシュミレータ
- ▷レースLIVE中継
- ▷ブース出展
- ▷TAKE-1グランプリ (木でミニカーを作って競争しよう!)
- ▷(屋外) キッチンカー・屋台

第1弾府中市・ふるさと納税型クラウドファンディング
「第11回全日本EV&ゼロハンカーレースin府中」
目標額に達し、プロジェクト成功となりました。

今回、府中市として初めて「ふるさと納税型クラウドファンディング」に取り組みました。温かいご支援とさまざまなご意見をいただき、行政としていろいろなことを学びました。ご支援いただいた皆さまをはじめ、関係者の皆さまに厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。

資金使途 会場費、広告費、運営費、ブース出展費など

第2弾プロジェクトスタート
「世界で活躍するドローンレーサーを育成したい!」



ドローンレースの分野では、10代も多く活躍しており、ドローン振興は、本市の人口減少の解決にも寄与する可能性があり、この第一歩として、世界で活躍するドローンレーサーを育成することで、市内外にドローン文化を広げるプロジェクトを府中市として支援することとしました。

授

業で自分たちが作った車を実際に走らせることなく、数値を測定して終わりでは、学生たちのモチベーションが上がりにません。そんなとき小林さんは、「自分たちでコンテストができれば、走行もでき、勝つためにいい車を作ろうと、学生のモチベーションが上がると、そこから開催場所と、協力者を探し始めましたが、簡単には見つかりません。「広島県や近隣自治体に相談しても、場所の使用はできるが、そ



福山大学 工学部
機械システム工学科

講師 小林正明さん

れだけしか協力できないと言われました。そんなとき、府中市内に一人二人と賛同者が増えてきて、府中市の桜が丘グラウンドで第一回を開催できました。」と教えていただきました。
かつて、小林さん自身も、大学時代に世羅町の八田原で行われていたゼロハンカーレースに出場していたそう、岡山県では、全日本高等学校ゼロハンカー大会が実施されています。その大会では、一般の部はありません。全日本EV & ゼロハンカーレースin府中は、ゼロハンカーや電気自動車、多くの人が全国から参加してくれています。初回から10年が経ち、そろそろ終わる時期かなと思っていたのですが、参加者の継続を望む声が多かったことから、府中市の協力を得て、改めて第11回を開催することになりました。「今回は、観戦者も、ものづくりを楽しむイベントの用意もあるそうです。」

府中市でしか見ることができないEV & ゼロハンカーレース



昨年のEV & ゼロハンカーレースで、2位に入り好成績を残した車体。



ゼロハンカー以外にも、フォーミュラカーも自作で制作しています。

参 加者間での交流と、開催地でもある府中市を知ってほしいと今回初めて企画したのが、交流会です。「去年来た沖縄県の学生たちは、福山市に泊まって、グラウンドに来て、レースをして、また空港に行くというスケジュールだったので、府中市では、グラウンドでしか過ごしていません。また、学生たち同士が会って話をする機会もありません。さらに高校生と大人世代も同様です。しかし、時間があれば、大人も学生も、話題の中心をものづくりにして、一緒に話が盛り上がるはずなんです。そんな小さなきっかけを作ったかったです。交流会をすることにしました。さらに、そこに府中市の企業の方もいれば、さらに盛り上がっていくでしょう。楽しみですね。」と期待は膨らみます。
そして、「せっかく府中市に集まったので、ぜひ府中焼きを食べて、グルメも味わってほしいですね。」とリクエストもしっかり出しています。

涙を流す場面も
学生たちが熱中する姿を見せる『〇〇甲子園』と題される大会では、勝利や敗北、成功や失敗に涙する姿を目にします。私たちはその姿に感動や共感を感じ、見入ってしまいます。全日本EV & ゼロハンカーレースin府中でも、同様に真剣なレースの中で、涙する場面がありました。小林さんは、「あるレースで、車同士が接触し、1台がチェーンをタイヤに巻き込んでしまいました。車は完全に動かない状態でしたが、ドライバーは降りてきて、涙を流しながら引っぱり、ゴールしようとしていました。私たちは、見守ることしかできませんでしたが、その子にとって、みんなで作った車でゴールに行くことに必死だったんだと思います。そのようなレースに真剣に取り組む姿を、ぜひ会場でご覧いただき、ご声援をいただけたらと思います。」と締めくくられました。